



Data

監督: アレクサンドル・アジャ
出演: カヤ・スコデラリオ/パリー・ペッパー/モーフィド・クラーク/ロス・アンダーソン/チョチョ

■■■ショートコメント■■■

◆10月12日の日本列島は、東海、関東、東北地方が台風19号に襲われ、河川の堤防の決壊等の大被害を受けた。それに対して、アメリカをたびたび襲う巨大ハリケーンの実態とその被害は？ヒロインのヘイリー（カヤ・スコデラリオ）は水泳選手だったから、水の中に浸ってゆく我が家の中で、巨大ワニと闘うことができたが、そこにいた一般市民（？）や警察官は？

87分にまとめられたサバイバル・スリラーはそれなりに楽しめる作品に仕上がっているが、父親のダイブ（パリー・ペッパー）が売りに出せなかった愛着のある自宅の地下を含む構造がイマイチわからないのが私には不満。そのため、父娘が必死にワニと闘っていることはよくわかるのだが、その具体的内容がイマイチ・・・。

◆ヘイリーがダイブを発見した時、ダイブはほとんど死にかけだったはずだが、その後の彼の復活と健闘ぶりはすごい。また、ヘイリーも何度もワニに足や手を喰われて満身創痍の重傷のはずだが、そのたびの回復力はすごい。もちろんこれは映画ならではのつくりものだが、あまりにそれが過ぎると、ちょっと・・・。

また、濁流の中に凶暴なワニがうようよしていても、父親から「お前はワニより速く泳げる」と激励され、それを実現してしまうシークエンスも、つい「ホンマかいな・・・」と思ってしまう。いくら「クロール」が速くても、もう少し現実的な“凶暴領域”にした方が良かったのでは・・・？

◆10月12日の千曲川の堤防の決壊の姿を見れば、自然災害の威力の凄さがよくわかる。それと同じように（？）、我が家の地下で長時間ワニと闘いながら脱出の機会を探っていた父娘は、やっとの思いでモーターボートに乗ることができたが、そこで遂に堤防が決壊したため、濁流に流され、何のことはない、またもとの家の中に叩きつけられてしまうことに・・・。さあ、万事休す。こうなれば後はできるだけ上に行くしかないため、父娘が屋

上に向かったのは正解。しかし、その手に発煙筒を持っていたのは、いくら何でもちょっと出来すぎだ。これは、デイブが屋上を目指す中、某所で発見したもののだが、この手の映画ならではのつくりごとが増えると、そのたび現実感が削がれることに・・・。

◆まあ、そんな文句ばかり言わず、87分間の「ワンイシュー映画」だから、それなりのスリリングな展開を楽しめたことに感謝しなければ・・・。そして、何とか救助してもらったことができたデイブ、ヘイリーの父娘に、「ご苦労様」と言わなくちゃ・・・。

2019（令和元）年10月18日記